

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第31週（7月29日～8月4日）

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 増加」

第31週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,734例であり、前週比12.1%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.55、3.45、1.70、1.41、1.14であった。

感染性胃腸炎は前週比15%減の699例で、南河内6.75、中河内4.70、泉州4.10、北河内4.07、大阪市西部3.80である。

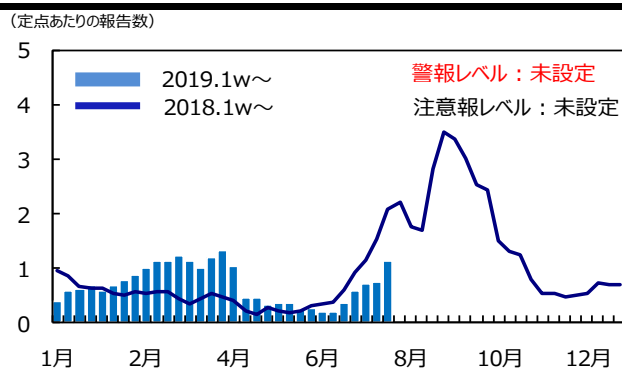
手足口病は前週比24%減の679例で、大阪市北部6.08、中河内4.45、北河内4.22であった。

ヘルパンギーナは前週比12%減の335例で、大阪市北部3.15、北河内2.70、大阪市西部2.50である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比20%減の277例で、南河内2.56、北河内1.85、堺市1.84であった。

RSウイルス感染症は前週比49%増の224例で、大阪市北部3.46、堺市2.00、大阪市南部1.56である。

RSウイルス感染症



手足口病

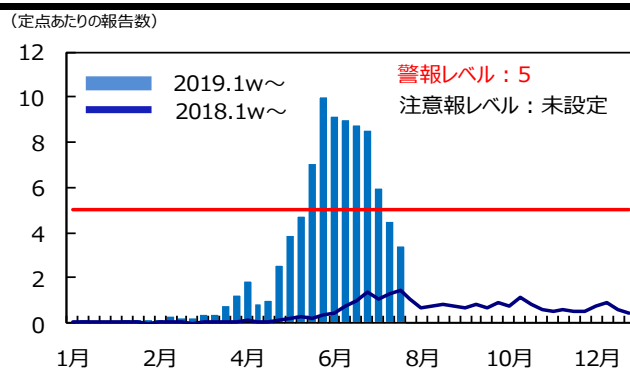


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第31週7月29日～8月4日）

第31週の順位	第30週の順位	感染症	2019年 第31週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第31週の 定点あたり 報告数	2019年第31週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	2	感染性胃腸炎	3.55	15%減	4.29	1歳_19%
2	1	手足口病	3.45	24%減	1.44	1歳_30%
3	3	ヘルパンギーナ	1.70	12%減	2.56	1歳_31%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.41	20%減	1.68	5歳_18%
5	6	RSウイルス感染症	1.14	49%増	2.09	1歳_41%

第31週のコメント

～レジオネラ症～ 2019年第31週までの累積報告数は57例です。

全数把握感染症

レジオネラ症

レジオネラ症は、レジオネラ・ニューモフィラ (*Legionella pneumophila*) を代表とするレジオネラ属菌による細菌感染症である。土壌や水環境に、普遍的に存在する菌である。人工環境（噴水等の水景施設、ビル屋上に立つ冷却塔、ジャグジー、加湿器等）や循環水を利用した風呂から発生したレジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染する。病型として肺炎と一過性で自然に改善するポンティアック熱がある。ヒト-ヒト感染はない。健常者も罹患するが、細胞性免疫機能が低下している、乳幼児、高齢者など、喫煙者、大酒家は重篤化する可能性が高い。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)
[レジオネラ症とは\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

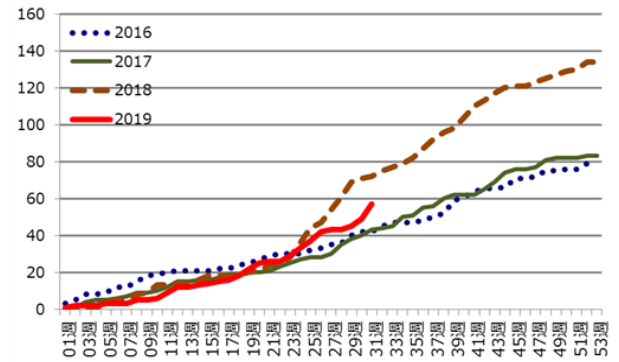


表 2. 大阪府全数報告数 (2019年 第31週7月29日～8月4日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 (報告があった疾患のみ記載しています)

	疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8	1	2	2	1				2	95
4類感染症	レジオネラ症 (肺炎型)	8	1	1		1		1	1	3	57
5類感染症	カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症	5		1	1			1	1	1	110
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2						1		1	34
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1							32
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1		1							5
	梅毒	6	2					1		3	642
	百日咳	10	2			1	1	1	3	2	555
結核 (2019年6月分)	結核 新登録患者数：141名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 50名) (府内累積報告数 842名、内 肺・喀痰塗抹陽性 320名)										

(2019年8月6日 集計分)